

坂野中学校の生徒が ロボットコンテスト全国大会で優勝

第15回創造アイデアロボットコンテスト全国大会の授業内部門で、坂野中学校3年生（大会当時）の澤田航平さんと島田史也さんが見事、全国大会優勝を果たしました。

全国大会は1月24日に東京都で開催され、各地区大会を勝ち抜いた代表24チームが日本一を目指して集結。2人が製作したロボット「エスペランサ」は、予選リーグを1位で通過し、一度も負けることなく決勝トーナメントを最後まで勝ち進みました。

授業内部門では、中学校の技術・家庭科の授業で学習した知識、技能を活かし製作したロボットを操り、紙くずや缶を運んで得点を競います。同部門の全国大会優勝は県内の中学校では初めての快挙であり、2人が製作したロボットはさらに厚生労働大臣賞も受賞され、高く評価されました。



全国大会の決勝戦に挑む澤田航平さん(写真右)と島田史也さん(写真左)



立江川でフナを放流する子どもたち

立江川の保全活動 子どもたちがフナを放流

ふるさとの川がいつまでもきれいであることを願い、立江小学校の児童や、立江保育所、立江幼稚園、新開幼稚園の園児ら約50名が3月3日、市立体育館横の立江川に約2万匹のフナを放流しました。

この取組みは、小松島淡水漁業協同組合（手塚勝己代表理事）が立江川保全活動の一環として毎年企画しているものです。

放流イベントに参加した子どもたちは、魚とのふれあいを楽しみながら、自然を大切にすることを育んでいました。

シルバー人材センター会員の技術や経験を 災害時のボランティア活動に活かす体制づくり

公益社団法人小松島市シルバー人材センター（勤労青少年ホーム1階）で2月27日、徳島県シルバー人材センター連合『災害ボランティアネットワーク』の説明会が開催されました。

この災害ボランティアネットワークは、平成27年度より、県内23のシルバー人材センターの会員が事前登録した災害ボランティアチームで組織されます。災害時には、協力要請に応じて、炊き出しや物資の搬入、土砂の撤去など、会員の専門的な技術や豊富な経験を活かした支援活動を迅速かつ円滑に行う体制づくりを目指しています。

説明会は3月2日にも開催され、小松島市シルバー人材センターの会員らが2日間で合計32名参加。

ボランティアの活動支援体制や登録方法などの説明に耳を傾けていました。

今後は、ボランティア登録者を対象に研修などが行われる予定で、平常時から支援活動の知識向上や登録者相互の連携を図っていく取組みが進められます。



説明会で熱心に話を聴く会員ら